

令和6年度 第2回 入野小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年7月24日（水） 9時から10時30分まで
- 2 開催場所 入野小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 幸子、山田 渉、岩田 邦泰、青木 有美、中村 勝彦
上水 孝徳、古橋 明美、原田 実穂
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 徳増 宏之（入野協働センター所長）
- 6 学校 伊藤 真理（校長）、江間 慎一郎（教頭）、野中 律宏（教務主任）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CS担当職員 野中 律宏
- 10 議長の選出
議長の選出について鈴木会長から上水委員を推挙する旨の発言があり、上水委員も快諾。他の委員も全員異議無くこれを承認した。
- 11 協議事項
 - ・学校評価の考察と2学期からの重点事項の検討
 - ※教職員を交えたグループ別協議と全体での協議
- 12 会議記録
 - （1）学校評価の資料の説明
議長の指示により、担当から学校評価にかかわる資料の説明があった。
 - ①アンケート項目は学校教育目標に合わせた4分野18項目になっている。
 - ②肯定的評価が90%以上の場合は青、否定的評価が20%以上の場合は赤になっている。
 - ③児童の評価はR5年度に比べても青が多く、赤は1項目「自分で自分をほめることができる」のみ。「いじめ」に関する項目もR5年度は赤であったが、R6は色がつかなくなった。記述では「いじめやけんかをなくしたい」「もっと挨拶したい」といった前向きなものが多かった。
 - ④保護者の評価もR5年度と比べると、青が増え赤が減った。特に「あいさつ」に関する項目ははじめて青になった。しかし「いじめ」に関する項目もはじめて赤になった。記述では「学校と協力して子供を育てていきたい」といったありがたい言葉や交通安全について危惧する意見もあった。
 - ⑤教職員の評価はR5年度に比べて青が減り赤は同等であった。保護者同様、はじめて「いじめ」が赤になった。特に「安全に気を付けて」が赤になったのが気になった。

(2) グループ別協議 ○強み ・ 弱み ◎ 2 学期の重点

① A グループ

- 地域の方々の支援や協力を恵まれている。
- いじめの宣言や年度初めのいじめについての指導を細かくしたことで、いじめに対して子ども・教師・保護者が敏感になった。→早期発見につながる。
- 外でよく遊ぶ子が多い。
- 委員会で、学校がよくなるように考えている。それがアンケートの数値につながったのではないか。
- 発達学級や外国籍の子供たちなどいろいろな人と関わる機会があるのは良い環境と言える。
- 保護者がとても協力的。
 - ・挨拶することはできていても返すことができない。今後指導していきたい。
 - ・注意されることで自己肯定感が下がってしまう。
 - ・受け身な姿勢の子が多い。自ら考えて実行する力が弱い。
- ◎ 2 学期に自分で考えて実行する場を設定したい。イベントを考えて実際にやってみたらどうか。
- ◎ 月のめあてがいじめに特化したもので、「相手に対して」のものが多かった。
「自分に対して」のものもめあてにしてみたらどうか。
- ◎ ほめ合うことを増やしていきたい。
- ◎ 教師が学校生活の中で見つけた子供の良いところを連絡帳や本読みカードを使って家庭に返す。教師だけでなく保護者からもほめてもらうことで、自己肯定感が高まりそう。よりうれしく感じるのではないか。
- ◎ 親子で会話をすることを、家庭に呼び掛けていけるとよいのでは。

② B グループ

- あいさつはできているように感じる
- 学ぶ意欲はある。定着しているかは不明なところもあるが。
- 学習の目的を明確にすれば、児童の活動も活発になる。
- 友達と協力し合う活動が得意である。
 - ・自分をほめることが苦手なのか。教師がほめることが必要では。
 - ・タブレットの画面ではなく、人と人とのコミュニケーションが苦手。聞き方も上手ではない。人に頼りすぎな面もある。
 - ・タブレット学習の意義や目的を共通理解する必要がある。ICTについては、子供も教師もスキルの差が大きい。
 - ・登下校での事故が多発した。保護者が友達との遊びでも送迎をしているから歩き方を知らないのでは。

- ・受け身な子が多い。災害時等に一人でも行動できるようにしたい。
- ◎自主的な活動にするために目的を明確にする。
- ◎言葉遣い。「ふわふわ」「ちくちく」 親や教師が温かい声掛けをしていく。

③Cグループ

- ◎自分で自分をほめるのはなかなか難しい。もっと他人からほめられたことを振り返らせてもよいのでないか。
- ◎生活のめあての振り返りはほめるチャンス。これらの活動を通して、自己肯定感を高めていく。
- ◎0か100かではなく、「チャレンジすることが偉い」という感覚が大事。ちょっとした伸びを学校と家庭で共有する。
- ◎参観会で親からほめてもらう場を設定する。親もほめ方が分かるのでは。
- ◎夢については、夢＝職業ととらえている子が多いのでは。近い将来の希望も聞きたい。
- ◎親子の会話や一家団欒の機会が減っているのでは。キャリアパスポートの頑張りや目標の記述を親にも伝え、家庭でもほめてもらう。それが夢や希望につながるのではないか。

④Dグループ

- 学習に対するプラス評価を子供たちが実感できている、環境が整っていることの証明だと思う。
- 素直な子が多く、教師の指示が伝わりやすい。
- イベントへの参加は教職員からもあり、距離が近くてよい。
- 七夕のイベントに母ボラが参加できてよかった。学校の様子も分かってもらいやすい。
- 協働センターのイベントへの参加児童も、素直で元気。
 - ・素直な分、流されやすい。例えば、道に広がって歩くのは悪いと分かっているが、お互いに注意し合えない。また、注意の仕方にも課題がある。
 - ・誘惑に弱い。自分で自分を守るような支援も必要。
 - ・あまり前に出たがらない。パワーが必要で、中学では少数派になる。新しい人間関係の中でも自ら一歩踏み出せる力が大切。
- ◎子供たち同士で良い雰囲気を作り出せる支援をする。
- ◎特活（委員会など）で、子供たちが自分たちでつくる入野小にしていく。子供が主体的に動けるように。
- ◎シェア・ド・リーダーシップ

(3) 全体での話し合い

◎自己肯定感を高める活動を強化する

- (1) 他者からほめられる機会を増やす。
- (2) 「あたりまえ」をほめる 「ほめる」の幅を広げる。
- (3) 家でもどんどんほめてもらう。
- (4) キャリアパスポートの活用 児童の頑張りを学校と家庭で共有する。
→「家庭でできるキャリア教育」

13 連絡事項

- ◆司会から、次回会議は10月3日(木)14:00から開催する旨の報告があった。